

整理番号	2024P-	137	補助事業者名	(福)清源会
------	--------	-----	--------	--------

別紙4 JKA補助事業 2024年度 事前計画/自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2025	年	1	月	18	日	作成者	鈴木浄哉
-----	------	---	---	---	----	---	-----	------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画/自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニース)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	事業計画どおり、新規にグループホーム専用の設計をした建物を設置して、旧1棟目の入居者(定員4名)の転居を行いました。他の2棟の入居者を含めて、入居者同士の相性や身体的な状態及び入居者の希望を考慮して、全棟が住みやすい環境を整えることができました。				
	事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	実施計画・体制	グループホームの所長とサービス管理責任者及び職員で建築計画を検討し、理事会の承認を得ました。設計監理者と工事請負業者と密に連絡を取り、順調に建築整備を行うことができました。建築後は、隣接するグループホーム住居と連携し3棟の建物で、所長1名、サービス管理責任者1名、常勤職員3名、非常勤職員13名の職員体制で支援を行っています。			採点 4
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] ・4名の転居	[達成状況] 100%	[具体的内容] 予定通り、 ・2024年4月に1棟目入居者と家族に転居説明をしました。 ・2024年10月から入居者のご家族と転居方法を申し合わせました。 ・2024年12月31日までに家具等の移動をしました。	採点 4
	事業の成果・波及	[達成値] ・4名の転居	[達成状況] 100%	[具体的内容] 予定通り、 ・転居の必要がある入居者4名が、2025年1月1日に転居を完了しました。	採点 4
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] 1. 印刷物100枚 2. 内覧会案内の掲載	[達成状況] 1.100% 2.100%	[具体的内容] 1. 2024年11月に内覧会の案内108枚を配布しました。 2. 2024年11月に内覧会の案内をホームページに掲載しました。	採点 4
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 1. 印刷物100枚 2. 競輪・オートレース補助金による事業の掲載 3. 地元新聞社への記事掲載依頼	[達成状況] 1.100% 2.100% 3.80%	[具体的内容] 1. 市役所、市内相談支援事業所、関連事業所、地元の住民、法人内事業所の利用者と家族、法人役員へ競輪補助金による事業を掲載した内覧会案内状を108枚配布しました。内覧会当日も、来場者へ事業所パンフレット(競輪補助事業表示のもの)を配布しました。 2. 競輪補助金による事業として本事業開始の案内をホームページに掲載しました。 3. 地元新聞社に競輪補助金による事業として案内しましたが、掲載されませんでした(有料広告を条件とされたため)。	採点 3
(5) 自己評価の体制	所長が依頼をして、利用者1名と家族2名、担当相談支援専門員1名により2025年1月17日に評価委員会を開催しました。法人ホームページで一部公表しました。				採点 4

(b) 総合評価

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。		総合評価点	4
(1) 事前計画 (2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	<ul style="list-style-type: none"> 以前の2階建てで段差のある建物から、平屋建のバリアフリーの建物を建築することができた。それにより入居者にとって暮らしやすい環境を整えることができた。 3棟すべての住居に段差無く移動できることにより、車イスや歩行介助の必要な入居者同士が交流しやすい環境も整えることができた。 グループホームの建物間で入居者が日々移動する姿や日中の外出する際にも、自然と近隣住民と挨拶し合えるようになった。 すべてのグループホーム設備の使い勝手がほぼ共通になり、食事・トイレ・入浴・洗濯等の業務手順が分かりやすくなった。 3棟の建物配置として、職員の動きの始点となる事務所のある建物を中心となり、支援者同士が連携しやすくなり、孤立することなく今まで以上に確認合って支援を行えるようになった。 		
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	建物等のハード面を整えることができたことから支援がしやすくなり、職員の定着を図り、支援スキルを伸ばしていくことで、入居者が少しでも長くグループホームで暮らしていけるよう進めていきます。		
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	今回の建設地は、法人所有の土地と隣接する宗教法人明光寺の土地を使用しています。宗教法人明光寺からの土地無償貸与をいただいたことで計画を実行することができました。また計画時点では、隣接する土地に独居高齢者の暮らし用住居がありましたが、高齢者入所施設に移された後に、親族が速やかにその住居の解体撤去にご協力いただいたことで、工事車両や資材置き場を十分に確保でき建設がスムーズに進みました。現在も、事業所の駐車場として活用しています。		

【建築】

別紙 JKA補助事業 2024年度 事前計画/自己評価書(5/5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)~(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)~(15)を付して、具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「*」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因		*	(1) 経費	(1) (6) に関しては、資材高騰により、想定を超える価格になり、設計仕様変更をする必要性が発生した。 (4) 入札により決まった工事請負業者の対応と手際が良かったことで、想定よりも早く工事と建物引き渡しが行えた。	(1) (6) に関しては、設計士と打合せを重ねて、よりシンプルな設計の変更を行うことにより経費を抑えることができた。 (4) 法務局への手続きや愛知県庁への手続きを早めに行う対応ができた。
			(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)		
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
	*		(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
		*	(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7) その他		
外部要因			(8) 受益者の規模・ニーズ	(9) に関しては、近隣住民のみならずが工事車両の敷地内の通行や工事騒音等への理解やご協力があり、スムーズに工事関係者が建築に取り組むことができた。 (15) に関しては、新聞掲載により事業認知を上げようとしたが、取材条件として有料広告を勧められた。当法人は有料広告で被害を受けたことがあり断ったところ取材に来られなかった。	(9) に関しては、上棟式にて持ち投げを行い、多くの近隣住民に喜んでいただけた。 (15) に関しては、ホームページや所長のブログやInstagramにて周知をはかった。
		*	(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者 (受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生 (地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
	*	(15) その他			
		(16) 特になし			